

研究室紹介のお知らせ 羽藤英二

都市生活学/ネットワーク行動学研究室 Behavior in urban Networks Research Group

日時 2007 年 4 月 17 日(水) 1200 ~ , 2007 年 4 月 24 日(水)1200 ~

場所 2階 205 号教室(輪講室), 受入れ人数:4 人

この他の日程を希望される方, 質問はお気軽に(hato@bin.t.u-tokyo.ac.jp)までどうぞ.

当研究室では, 都市空間上のヒトの心理と行動の諸相をネットワーク的な視点で分析し, よりよい空間デザインを行うことを目指しています. 新しい研究室なので, 個人個人の知的好奇心を下敷きに, MITやIsrael Technion, ネパール工科大学などとの連携を通じ, 個人の能力とやる気に応じた研究を行っていきたいと思っています.



主な研究テーマ:

1. 回遊行動心理の分析と都市空間設計

小規模な都市空間で繰り広げられる都市活動を心理学的なアプローチにより明らかにしていきます. 商業施設や文化施設の空間的配置やビルボード広告, 空間の形態そのものが個人の心理とその回遊行動文脈に与える影響を定量的に分析します. さらにそこで得られたよりよい理解を下敷きに実際の空間デザインを行っていきます. a)渋谷/下北沢における回遊行動の心理分析と空間デザイン b)都市空間の使い分けと生活スケジュールリング

2. 未来都市 東京 2100 に向けて

都市の未来像を, いくつかの都市と広域圏を対象にスーパーマイクロシミュレーションを用いて構築していきます. 総合的な未来都市戦略についてはシナリオ・ライティングを行った上で, デザイン・コントロールやLRTなどの公共交通の優遇措置といった制度面についても, 実際の自治体と連携して具体的なマスタープラン作成にアプローチしていきます. a)分散型スーパー都市シミュレーションの開発 b)総合的な都市生活交通戦略の構築

3. 街道の時空間的構造とその魅力

個人史と都市空間史を下敷きにコミュニケーションを媒介とした風景の構造を分解し読み解くこと, そして読み解いた風景の構造を生かした空間デザインを行うことを考えています. 具体的には世界遺産を目指す四国の遍路道とその周辺の風景街道において, 地形を生かした風景ミュージアムなど様々な活動を行うことを考えています. a)風景遍路街道 小径の構造 b)地形を生かした空間デザインとフィールドミュージアム

4. プローブパーソン研究

音や温度, 加速度やビジュアルといった複数のセンサー情報とGPS ケータイ, ブログの情報をハイブリッドに組み合わせることで, 都市空間における人の行動文脈とその心理を完全に自動的に計測・推計し, 必要な関心空間情報を自動生成するライブラリアン技術を完成させることを目指しています. a)BCALS Behavioral Context Addressable Loggers in the Shell の開発 b)マルチセンサー情報による行動文脈の推計技術 c)関心行動空間 DB とその可視化・検索・マイニング・ゲームシミュレーション技術

